

平成二十三年  
いのち

生命の言葉

十月

末の世と いつより人の いひ初めて

猶世なほの末にならぬなるらむ

大隈言道

裏面もご覧ください。

十月  
生命の言葉

人はいつの時代から「世も末だ」と言い  
始めたのだろうか。随分、昔から言い続  
けながらも、いまだに世の末にはならな  
いようだ。

『草径集』

大隈言道 (おおくまことみち)

一七九八〜一八六八年。江戸時代後期の歌人。福岡の  
商家の生まれ。三十九歳で家業を譲り隠棲、実情実  
景を率直な言葉で詠むことを重んじ独自の歌風を  
築いた。幕末といういわば日本の世紀末の時代にあつ  
て、それに浮き足立つ世相への憤りを歌ったもの。自  
分の今、生きている時代を自覚し、質朴に懸命に生き  
ることこそが大切だという思いが込められている。

紅葉燃ゆる頃のご参拝、皆さまの願い事はきつと神さまに届きます

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp/>



遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮